

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】

2025年度 最優秀校

郡山市立明健小学校

「科学が好きな子ども」を「自ら自然に働きかけ、自ら科学を学ぶ意義や価値を創り出す、やさしい子ども」と設定し、その要素である働きかけ、創り出し、やさしい、の3要素について定義を明確にして取り組まれています。また目指す子ども像を実現するため、視点1では、子どもたちがより主体的に問題解決できるように、発達段階に応じた学び方を設定しています。また視点2では、子どもたちの問題解決手法に合わせて、授業Typeを5種類設定しています。いずれも子どもと向き合い、子どもの立場に立って、子どもが学び方を自己選択できるように環境を整えることに心がけていると感じました。

授業実践ごとに適用した授業Typeと設定した理由を明示しているため、教員の単元に取り組む意図・目的が良く理解できます。その目的に対して、子どもたちがどのような思考過程で授業に取り組み、どのように変容したのか、具体的に記述されており、とても分かりやすい内容となっていました。

研究テーマ、視点、手立てが明確に記載されているため、実施後の振り返りにより成果と課題が的確に抽出されており、深く分析されていると感じました。理論と実践が結び付きつつあると考えられます。また、「Meiken 9's」を基にした明健中学校区内の小小連携、小中連携にも取り組まれており、昨年と比べて進化がみられている点は高く評価いたします。来年度は、更なる進化に一層期待しています。

来年度の「子ども科学教育研究全国大会」の開催に向けては、明健小学校を中心となり連携する4校で、子どもたちの発達段階に応じた学び、問題解決の方法に適した授業Typeを適用した学びを通して、子どもが成長する姿を発信していただけるように期待いたします。